

## 「名を呼ばれる神」

### 創世記 16 章 1 節 ~ 10 節

聖書には、神様が、人を名前で呼んでくださる、ことが書かれています。神様は、今の私たちと交わり、名前を呼ばれるとき私たちの全存在に関心を示し、喜んでくださいます。本日は、聖書から、名を呼ばれる神を焦点にしてお話をしたいと思います。

今朝のメッセージの中では、アブラハム、サラという名前で進めさせていただきます。続く、17 章に入るとアブラムは、正式にアブラハム、同じくサライは、サラと呼ばれます。今の私たちにとって、馴染みのある名前の方でお話をさせていただきます。

今朝、お読みした 16 章は、アブラハム 86 歳 サラが 76 歳のときになります。その冒頭は、サラが不満をぶつける、場面から始まります。2 節【**主は、わたしに子供を授けてくださいません。**】と、サラは夫アブラハムに打ち明けます。その理由は、神様が、アブラハムにお与えになった祝福の契約にあります。創世記 13 章 14 節以下、【**あなたの子孫を大地の砂粒すなつぶのようにする。あなたに与えるから**】と神様が、子供を授けてくださる約束をいたします。この祝福は、15 章にも出てきます。当時、子供の誕生は夫婦にとっての喜びになります。民族共同体の未来につながります。しかし 10 年経っても神様の約束は、実現されません。サラに、子供ができないのです。サラは、納得できない。これが 2 節の【**主は、わたしに子供を授けてくださいません。**】という言葉になります。そこでサラは、一気にことを押し進めます、つまり子供の出産に取り掛かります。第一にサラは、自分の女奴隷、ハガルを、アブラハムに与えます。次に、ハガルから生まれた子供を、自分のものにする。これがサラの考えになります。神様の断りなしに進めます。こうして女奴隷ハガルは、妊娠しました。しかし、この時からハガルの態度が変わります。彼女は、サラに対して軽蔑します。

当時、子供を産めない女性は、周囲から蔑まれていました。この苦しみはその本人、女性にとってとても辛いことでした。このようにハガルは、サラを不妊の女として軽んじました。その結果、険悪な展開になります。サラは、自分の立場に危機感を感じ、”あの女奴隷が私を見下すのよ！！”とアブラハムに責任を押し付けます。一方のアブラハムの主張は、”女奴隷を好きなようにするがいい、”とハガルに矛先を向けます。

こうして6節、サラは、ハガルにつらく当たります。このつらく当たるという動詞は、自尊心を傷つける、とことんいじめる、という非常に強烈な意味を含んでいます。耐えられないハガルは、逃げ出します。荒れ野<sup>あれの</sup>に逃れます。荒れ野とは、荒野のことで飢え渴きが激しく、砂漠のようなところです。かろうじてハガルは、泉のほとりにいますが一歩進めば、死を意味する場所、これが荒野になります。見渡す限り何も無いところ、絶望的なところになります。お腹にお赤ちゃんがいる、孤独、どん底にいるハガルの気持ちは、”誰も、私を待ってなんかない。私は、なんのためにいるのだろう”と苦しみます。そこで、神から遣わされた御使いの登場です。神の御使いは、彼に出会われ、『**サライの女奴隷、ハガルよ**』と名前を呼びかけてくださいました。

御使いは、ハガルと名前を呼びかけることを通して、どのようにして彼女を荒野から導かれたのでしょうか。この呼びかけは、今の私たちにも語られています。

第一に、名前を呼ばれることを通して神様は、そのままのあなたを受け入れられる、ということです。受け入れる というのは、私たちがどんな場面にいたとしても神様は、あなたの全存在を大切になさる、ことです。これが、神様が名前を呼ばれる意味になります。本日の箇所、全体を一度、読み通して見ますとアブラハムとその妻サラは、彼女に対して、一度もハガルと名前と呼ぶことはありません。いつも女奴隷になります。名前と呼ばれないというのは、もの、や所有物のように人を扱うこともなります。このように、ものや所有物のように扱われたら人は、どうなるのでしょうか。大抵の人は、心が折れてしまいます。“わたしは

必要とされていない”と、自分自身を見失います。しかし、神の御使いは、荒野のいた彼女をハガルと名前を呼んでくださるのです。御使いが、ハガルと名前を発した目的は、- あなたは人格をもった存在、いのちあるもの、なくてはならない存在です - という神とあなたの関係を示される、ことを言います。ですから、ハガルという名前を聞いた、彼女本人の気持ちは、”私を人として見てくれている、私の存在に関心を示してくれる、この方こそ神様なんだ ”という喜び、感謝に溢れます。これは、今ここにいる私たちにも語られています。今朝この礼拝に、神様は臨まれ、私たち一人一人の名前を覚え、呼びかけられます。私たちの心は広がり、喜びになります。

第二に、神様は、永遠に、神とあなたとの交わりを続けてくださる、ということです。神とあなたとの交わりというのは、神様が、これからの私たちのために最善をなしてくださる、ことになります。9節をご覧いただくと、御使いは、ハガルに言います。『 **女主人のもとに帰りなさい。従順に仕えなさい。** 』と勧めています。この御使いの帰りさない という言葉は、ハガルにとって、受け入れ 難いことでした。ハガルにとって女主人サラのもとに引き返すことは、自分にひどい仕打ちをし、追い出したところに帰ること、そこは一番辛い場所になるからです。しかし、御使いの命じた、帰りなさい の本当の目的は、- “ 私が、あなたをアブラハムの家に遣わします。あなたは、再び奴隷になるために引き返すのではなく、ハガルとして、戻ります。神である私が、あなたと共にいます。安心して、帰りなさい ”- という意味になる、これが、御使いの言った帰りなさい、になります。こうしてハガルは、御使いの言葉を信じます。彼女が信じることできたのは、御使いが、私を用いてくださる、ことを、確信できたからです。自分にとって、決して良いとは思えないアブラハムのところを…御使いが、私にとって最善なものに変えてくださる、ことをハガルは信じた。ですから、彼女は、帰ることができました。これは、今の私たちにも語られています。ハガルのように極端ではなくても今の私たちも、自分にとって辛いところに移されることがあります。人との関係、そして会社、職場など

家族同士の中で自分にとって居づらい、でも留まり続けなければならないことがあります。しかし、神様は、そこで、あなたの名前を呼ばれます。自分にとって沿わないところにいるとしても、神が、私たちに、**とって最善なところに変えてくださる、と私たちは信じることができます。**神様が、働かれ最善なところにしてくださるのなら、私たちはどこでも、どんな場面に移されたとしても、- 神様が私に期待しておられるところ、自分の成長する場所、私の喜ぶところ - にしていくことができます。

ハガルは、アブラハムのいる共同体に帰ります。15節をお読みします。**【ハガルは、アブラハムとの間に男の子を産んだ。アブラハムは、ハガルが産んだ男の子をイシュマエルと名付けた。】**とあります。子供が、無事に生まれました。男の子になります。アブラハムは、生まれてきた子供に名前を付けた、と書かれていますが、彼はなぜイシュマエルと名付けることができたのでしょうか。それは、アブラハム夫婦が、ハガルから報告を聞いたからです。”御使いが、ハガルと私の名前を言い当て、荒野から助けてくださった、御使い自ら、イシュマエルと名付けて下さった”こと、こうした御使いとの出会いをハガルから、聞き出すことができたからです。それゆえ、アブラハムは、イシュマエルと名付けることができました。この時、アブラハムとサラは、どんな気持ちで彼女から話を聞いたのでしょうか。実は、彼らは、顔から火が出るほどに恥ずかしい思いだったでしょう。なぜなら、自分の心、知られたくない心までも、御使いに見られていたからです。それは彼らが、みごもったハガルをいじめ 追い出してしまった自分の冷酷な心を、御使いは、よくご存知で…しかも、御使いがハガルをかばい、連れ戻された一部始終をアブラハム夫婦は、悟った、聞いた。だから彼らは、悔い改めます。

しかし、神の御使いが、彼らに一番伝えなかったことは、反省や責任は誰が取るのか、を問いませんでした。むしろ、御使いが知ってもらいたかったのは、生まれてくる子供に名付けたイシュマエルという名前の意味に

ついでになります。イシュマエルという名前の意味は、” 神は、聞かれる” になります。このように御使い自ら、お定めになった名前イシュマエルには、アブラハム家族全員の心の嘆き、痛みを、” 神である私は、しっかり聞いています、それに答えます ”という、メッセージが込められているのです。

神様は、どんな心のお聞きになったのでしょうか。

それは今回、ハガルにとっての辛い荒野の経験を、神は、聞かれていた、になります。

さらに冒頭にあったアブラハム、サラにとっての心の叫びを、神様は 聞かれていた、になります。

彼らの心の嘆きとは、” どうして子供を授けてくださらないのよ、神様は私たちに 子供を与える約束!!お忘れになったのよ ”という彼らの気持ちを実は、神は聞かれていた、ことになります。むしろ、神は、約束を忘れていたのではない ”あなたと結んだ祝福の契約、あなたの子孫は星の数のようになる、約束は覚えています。必ず、実現する ”というその思いを持って御使いは、イシュマエルと名前をつけ、アブラハム夫婦の願いに答えられる、これがイシュマエル、神は聞かれる、になります。ですからアブラハム夫婦、そしてハガルは、生まれてきた イシュマエルを囲み、その名前、神は聞かれる、に思いを寄せるとき、神様からの慰めを受け、喜びに満たされていくのです。

今朝、この礼拝の上に神様がおられます。今、ここにいる私たちお一人お一人の名前を呼ばれることを通して神様ご自身は、

第一に『 私は、いつもあなたの味方です。 』と語り、私たちの全存在を受け入れます。

第二に、あなたの名前を呼び続けることを通して神様ご自身は、『 私は、あなたの必要に答えます 』と約束し、今、私たちの祈りを聞かれます。お祈りをいたします。